



～ 夢ひとすじに ～
宮原中だより

自ら学び 心豊かに たくましく

平成 26 年度 第 12 号
平成 27 年 3 月 2 日 (月) 発行
さいたま市立宮原中学校

メールアドレス
miyahara-j@saitama-city.ed.jp
ホームページアドレス

<http://miyahara-j.saitama-city.ed.jp/>

「あ」「そ」「ぶ」「べ」「し」

校長 やました せいじ
山下 誠二

2月16日に100名を超える地域の高齢者の方と中学生との交流給食会を開催するにあたり、お力添えをいただきました老人クラブ協議会、社会福祉協議会、民生委員・児童委員協議会、わかば会等の各団体の皆様にもまずお礼を申し上げます。参加者の最高齢は、93歳の須賀はつさん。須賀さんの背筋が伸びた立ち振る舞いには感動しました。生徒と給食を一緒に食べながら、「生まれて初めて給食を食べたわ」「昔の宮原はね・・・」等、こんな会話が宮原中の教室に響きました。5時間目には、1年生とともにAEDを含めた心肺蘇生法の授業を実施しました。約30名の方が、心臓マッサージやAEDの使い方を中学1年生から学ばれる姿を見て「あんしん みやはら」の合言葉が、さらに地域に根づいたと強く感じた一日でした。また、21日、22日には、北区文化まつりが、プラザノースで開催され、学校評議員の酒井こずえさん、夢チャレンジスクールの柴崎廣土さん、小林正子さん、読み聞かせの今井恵子さん、沼宮内哲子さん等が出品されており、とても素晴らしい作品ばかりでした。また、ステージの部では、読み聞かせ「星とタンポポ」のメンバーが多い大宮別所小コラス部、そして、本校の合唱部がトリを飾り、アンコールが起こるなど、地域の皆様に素晴らしい歌声を聴いていただくことができました。期末テスト前なのに、参加してくれた11名の部員に感謝します。

さて、あと数日すると「暑さ寒さも彼岸まで」の言葉どおり、春分の日前後のお彼岸を目安に暖かい日差しが私たちが包む春がやってきます。彼岸というのは「迷いの此の岸より、悟りの彼の岸に倒れる」という教えの中に出てくる言葉です。此の岸とは、「俺が、私が」と自分の思うようにしようとしたり、他人の迷惑を顧みず自分の損得ばかり考えて行動する世界です。彼の岸は、それとは対極の世界です。怠けたり、欲深い考えを起こしたり、人を恨んだり妬んだりすることのない世のことだそうです。最近、大人も子どもも忙しすぎて、自分を振り返る心のゆとりを忘れがちです。お彼岸などにお墓参りをし、ご先祖様に手を合わせ、心の安らぎを得ることも心を磨くよい機会だと思います。自分たちに関わる大事な人は、今、現在だけでなく、歴史の流れの中にもたくさんいます。親子でそのような人々の思いを語り合うのもよいかもしれません。



結びに、13日に卒業式を控えた卒業生の皆さんに言葉を贈りたいと思います。それは、「あそぶべし」という言葉です。挨拶の「あ」、掃除の「そ」、部活動の「ぶ」、勉強の「べ」、進路の「し」です。これからの皆さんは、中学校生活と比べて格段に世界(視野)が広がります。時と場に応じたさわやかな挨拶ができる人、身だしなみや回りを常に清潔にしている人、自分の趣味や特技に没頭できる人、生涯学び続けることができる人、自ら自分の人生を切り開ける人。こんな人は、周りの人たちとコミュニケーションをとりながら、豊かな人生をおくることはできるはずです。自分の可能性を信じ、たゆまぬ努力をすることが、皆さんの夢や希望を実現させる原動力になるはずです。中学時代、うまくいかなかった人も当然いるでしょう。でも、人生はこれからです。「A B C Dの原則」を基に、今後は、自分の置かれた場所で、精いっぱい根を張らし、花を咲かせてください。期待しています。